

## 第2回 江南区教育ミーティング 会議録概要

開催日時	平成28年1月28日(木) 午後1時20分から午後2時50分まで
会場	江南区役所3階 302会議室
出席者	江南区自治協議会委員 出席14名 教育委員 齋藤教育委員、伊藤教育委員 事務局 教育総務課課長補佐、地域教育推進課課長補佐、学校支援課課長補佐、亀田地区公民館長、江南区教育支援センター所長・指導主事
議事	<p><b>1 開会</b></p> <p><b>2 教育委員挨拶</b></p> <p><b>3 出席者紹介</b></p> <p><b>4 平成27年度全国学力・学習状況調査の新潟市の結果について</b> 事務局説明 学校支援課課長補佐</p> <p><b>5 テーマ「学・社・民の融合による人づくり、地域づくり、学校づくり～これからの連携に向けた本音トーク」</b></p> <p><b>事前質問回答</b></p> <p>I 人づくり、地域づくりの観点から見た今後の連携の方向について</p> <p>II 「学・社・民の融合による教育」についての教職員の理解度、温度差について</p> <p><b>6 意見交換</b></p> <p><b>自治協委員</b></p> <p>地域と学校パートナーシップ事業のパンフレットにあるような活動が本当にできたら、地域の活性化や高齢化問題など喫緊の課題についても取り組んでいけると思う。「体験活動」については定着しているが、「学びの拠点」は機能しているのか。もっと施設としての活用をすべきと思う。</p> <p>また、「地域とともに」とある部分について、研修の際に、ある中学校の防災教育の時間に地域の人と一緒に学び、訓練では97%の中学生が参加し、地域の人も中学生が災害時に活動できると期待しており、中学校が防災の核となるという発表があつて素晴らしいと思った。事例をもっと知りたいし、地域とどのように連携していくのか教えてもらいたい。</p> <p><b>教育委員会事務局</b></p> <p>区内では、大淵小、両川小でボランティア室が改築・新築時に整備され、地域の人がお茶を飲んで交流する場などとして使われている。中央区の笹口小では校内の「ほっとハウス笹口」という、地域の人たちが集まる場所に休み時間や放課後に子どもが自由に遊びに行くという取り組みがある。</p>

### 教育委員会事務局

「学びの拠点」は、今後地域教育推進課でも力を入れていく部分。区内でもいくつか地域の人の学びの場として取り組んでいる（東曾野木小の「フラワーアレンジメント教室」など）。教育支援センターとしても広報手段を検討していきたい。

### 自治協委員

地域の方にはお便りを出しているが、区全体になると難しく、区だよりなどに載せると皆さんの意識も変わっていくのかと思う。研修会でも色々学んだので、これから少しずつ増えていくことと思う。

### 自治協委員

本年度の研修会で「地域の学びの拠点づくり」の学習をしたが、学校を地域の学習の拠点にするのは地域教育コーディネーターにとって重圧である。地域教育推進課長から、大人と活動することで子どもが学んだり、逆に大人が教職員や子どもたちから学ぶこともあると、「学び」の概念を幅広くとらえてよいと示してくれたので少しは楽になったが、不満もある。

中学校で、昨年度は許可が出た催しについて、今年度は担当教員と教頭先生の考えが違いコーディネーターが板挟みになることがあった。いろいろ規制があるので、協力してもらえる体制を整備していかないと地域の人に敷居が高いし、コーディネーターも大変な思いをする。集まってもらうには土日を設定するので、ある程度教委でも統一してほしい。

### 自治協委員

市民は学校のことがわからないので広報が大事である。施設利用時、なぜ管理者がいないとだめで、コーディネーターに任せられないのか疑問である。

### 教育委員会事務局

コーディネーターの出勤時間の関係もあるし、管理責任がコーディネーターに負担になるようでは困る。全部にそうしてくれというのは難しい。

### 自治協委員

横越では、小学校だよりが月に1度地域の回覧として全域に出されており、たいいの情報は得られる。横越コミ協と学校の連携は、連絡しあいながらやっているのでスムーズに行われている。

### 自治協委員

どのくらい子どもたちが、新潟に居着いて支えてくれるのか心配である。近所に子どもが一人もいない人もいる。地元に住続けられるような道筋や方策をお願いしたい。

### 教育委員会事務局

中央区の柳都中では舟栄中の流れを引き継ぎ、生徒が地域ボランティアとして

何ができるかという発想のもと、ジュニアレスキュー隊を作っている。全市的にジュニアレスキューは展開しており、救急処置やAEDの講習を受けている。地域にアンケートを取った時、お年寄りの多くから「頼りになるのは中学生」と言われておりありがたい。

#### **教育委員会事務局**

防災訓練の時に、自治会ごとに集まって地域の人と子どもと一緒に非常食を食べたり、地域の歴史を学んだりしながら顔合わせをしている所もある。

#### **教育委員**

広報の力が大切と思う。各学校のHPでもその時々取り組みが把握できる。学校のウェルカム参観日では、地域の祭りについて地域の達人が授業していた。防災についても、地域の方が先生になったり、子どもが主役になったり、学校を拠点にした取り組み方はいろいろある。

#### **教育委員**

地域による温度差はいたしかたない。地域教育コーディネーター同士で情報交換したり、知恵を絞って地域が情報を得る広報体制を作っていく必要がある。

コーディネーターさんが悩んでいる部分は、教育支援センターに相談してほしい。

「子どもが将来地域に残ってくれない」心配については教委だけでなく国全体の問題と思う。「学校を中心とした地域が一体となった教育」で地域の素晴らしさをどう伝えていくかだと思う。地域の行事等が良い思い出になるよう周りから伝えていただきたい。

#### **自治協委員**

Ⅱについて、学校や地域にとって本当に必要な内容なら、総合学習の授業やカリキュラムの中で全市的に取り入れなければ温度差は埋まらないと思う。学校、教委でもう一步進んでもらいたい。地域の方は生徒のためにボランティアに入ってくれているので、自分たちの生徒で地域を盛り上げようという気持ちを教職員全員が持つような体制作りをお願いしたい。

#### **教育委員会事務局**

国の中教審の答申でも地域との連携は大事とうたっているので、教委としても学校の方に研修等で伝えていく。事例など紹介しながら今後進めていきたい。

#### **教育委員会事務局**

各学校の教育課程の編成は校長が行い、教委学校支援課はそれを確認して指導していく。各学校の状況の中で、力を入れたいところをやっていくので、何をやるかを一律で示せない。学校が何を課題ととらえ、どう地域と一緒に作り上げるかを応援していくが、地域連携の視点を忘れないでという指導はできる。その部分で指導助言をしていきたい。

### 自治協委員

「職場体験」と同じように、どこの学校でも必要だというものが出たら検討していくシステムが必要だと思う。

### 教育委員

今の発言では校長まかせと取られたと思うが、委員の気持ちは、どの程度、教委が指導的な立場で新しい方向に向かっていく可能性があるのかということを知っているのだと思う。

### 教育委員会事務局

決して丸投げしているわけではない。全市的に必要なものなら考えていく必要があるし、中学校区や各学校の評議員会などで、学校と地域のニーズがうまく話し合われると、学校としてもそれを受けながら動いていきやすくなる。支援課としても見守っていきたいし、指導主事が行って手伝うことも可能。

### 自治協委員

これからの課題(少子高齢化など)に向かって、学校教育も見直していく必要があり、地域の要望がどんなものを学校現場もとらえてほしい。

### 自治協委員

私の校区は地域連携がとても進んでいるが、母親の世代が地域に密着して活動していない。子ども同士のトラブルに、親がすぐ電話したり大ごとになる。学校で物を壊したり、けがをしたりすると保険はどのようになっているのか。また介助員の基準は。

### 教育委員会事務局

誰かの持ち物を壊した場合は、学校ではなく個人の加害責任が生じる。公共物の破損なら、事情を確認して学校で直すのが一般的である。意図的なら壊した方に請求する。状況を丁寧に確認し、全体を見て判断する。

介助員の配置基準は全体の予算が決まっており、4月の学校からの申請に対し特別支援教育の専門スタッフが授業の様子を見て判断する。

### 自治協委員

学校は子どもの個性を見て大きな心で対応してもらいたい。少しでも子どもの行動の様子がおかしいと、病院へ行きなさいなどという話になる。

### 教育委員会事務局

突然「医療機関にかかるように」などとは言っていないと思う。学校支援課の中にサポートチームがあり、様子を見に来てほしいなど、学校からの要請があれば3人一組で訪問し、教員の側の適切な言葉かけの助言なども行っている。

## 7 閉会